学校だより 熱 砂

＜発　行＞
令和５年２月 28 日
発行責任者：
校長　和田　政男

2/13～16，KHDA インスペクションがありました

コロナのために中断していた KHDA インスペクションが３年ぶりに行われました。本校には１週間前の 2/6 に予告があり，３日間で求められる膨大な情報をネット上の指定場所に入力，アップロードして準備を整えました。

インスペクションチームは８名。月曜日から水曜日までの３日間で教員，生徒，保護者，学校運営理事会の理事等へのインタビューや授業観察を含み，徹底的に査察を受け，木曜日は口頭でインスペクションに基づく助言を含む指摘を受けました。

インタビューやアンケートに対応していただいた皆様，有難うございました。助言・指導事項の概略をお伝えします。

＋アカデミックな面での評価は非常に高かったこと。＋生徒の意欲は高く，学習に臨む姿勢が非常に良いこと。＋生徒・教師・保護者の信頼関係が良く出来ていること。＋学校はおたより等を発行し，学校の情報発信意欲務めていること。＋前回インスペクションよりも自己評価の精度が格段に上がり，インスペクションに良く対応できていたこと。等

一方，―校舎は古く，現在の学校の安全基準を満たしていないこと。―アラビア語の時数が規定を満たしていないこと（規則では週に最低 160 分やるべきところ，本校では 50～100 分しかやっていない）。―UAE ソーシャルスタディ，モラルエデュケーションは必須であること（本校では社会科，総合的な学習の時間，道徳でそれらをカバーしていることを，相関表を示して説明し，一応納得していただいた）

正式なインスペクションレポートは，今後数週間で届くと思われます。

指摘された事項については，それぞれ対策を講じて取り組みたいと思います。

新校舎検討委員会

建築後約 40 年を経過し，老朽化した現在の校舎をどうするかを検討するために，昨年より学校運営理事会内に「新校舎検討委員会」を設けて検討を進めてきました。様々な選択肢を検討し，それぞれのメリット・デメリットをまとめ，概要が見えてきたところですが，新校舎を得るためには乗り越えなければならないハードルがいくつかあり，学校運営理事会内での検討からさらに駒を進め，日本人会全体で推進すべきであると，学校運営理事長と日本人会会長が相談をしているところです。

ここで，日本人学校の仕組みを確認しておきたいと思います。

学校沿革史や周年記念誌等には，43 年前のドバイ日本人学校設立の経緯が記されております。(以下，本校編纂の副読本「わたしたちのアラブ首長国連邦」から抜粋)

～前略～

「子ども達が日本語を学べる学校（日本人学校）があればどんなにいいだろう」と考える人たちが多くなってきました。

そこで，「日本人学校をつくろう」という話し合いが，お父さんやお母さんたちの中で始まりました。しかし，これはとても大変な事でした。

～中略～

しかし，日本人学校をつくろうと考えていた人たちは，あきらめませんでした。大使館にお願いし，日本の政府や UAE の政府と何度も何度も話し合いをもちました。そして，1980 年（昭和 55 年）４月 15 日に「ドバイ日本人学校」を開校することができたのです。ドバイ日本人学校をつくるために，一生懸命努力してくださった人たちは，「学校をつくるということは，わたしたちの手で 1 枚 1 枚の板にくぎを打ち付けていくことなのです。私たちのかわいい子ども達のために・・・」と，いつも話し合っていたそうです。

～後略～

ドバイ日本人学校は，当時の「日本人会北部支部」（現在のドバイおよび U.A.E. 北部日本人会）内に作られた「日本人学校設置準備会」が中心となり設立されました。学校の仕組みを整え，日本の文部科学省に日本人学校として認可され，文部科学省より日本の教員が派遣されるようになりました。

学校（校舎・土地）の取得を始め，学則の制定，授業料の徴収，現地採用職員の任免等々，学校が運営出来るように物理的に整え，運営するのは学校の設立者である当地日本人会の役割であり，教育課程を運営するという専門的な部分を派遣教員が担うのが日本人学校の仕組みです。日本人会が設立した学校を運営するために，日本人会は日本人会内に教育部を設置し，教育部が学校運営理事会を組織して日本人学校を運営しています。

日本人会は長く法人化されていなかったので，ドバイ日本人学校は「在ドバイ日本国総領事館付属」と名乗っておりましたが，日本人会は昨年３月に法人化され，今は名実ともに日本人学校の設立者は日本人会ということになります。

今回，本校が新校舎を得るために日本人会全体で考えなければならないというのはそういうことです。